

富山県経済・文化長期ビジョン

～活力と魅力あふれる県ひいては日本再生・再興の一翼、一端を担い得る県として、
次の世代に継承・発展させていく確固とした基盤を構築～





本編：将来像とその展開方向

I	はじめに	1
II	基本的考え方	2
	1 内外の潮流	2
	2 ビジョンの性格	4
	3 策定の背景	5
	(1) 現時点で予測可能な将来の富山県のすがた（仮説）	
	(2) なぜ2045年を展望年次とするのか	
	(3) 富山県の強みを最大限発揮する	
	4 策定に当たっての視点	12
	(1) 経済と文化の相互作用と新たな価値創出	
	(2) 第4次産業革命への対応	
	(3) グローバル化への対応、発信力の強化	
	(4) 「富山アイデンティティ」の継承	
	(5) 地域における多様な人材育成	
	(6) 新ゴールデンルートの形成から「大ゴールデン回廊」の創出	
III	ビジョンの構成	16
	1 策定体制、経過	16
	2 3つの将来像	17
	3 9つの展開方向、30の新たな構想、3つのテーマ別政策目標	17
IV	むすび	21

別紙：30の新たな構想（リーディングプロジェクト）

経 済

- (1) 生産性向上と新たな価値創造の創出 23
 - 経済1 第4次産業革命を勝ち抜くための製造・研究開発拠点の整備
 - 経済2 環境・エネルギーフロンランナー富山の創造
 - 経済3 バイオ技術等を活かした「世界に注目される薬都とやま」の創出・新展開
 - 経済4 成長産業として力強く魅力あふれる農林水産業の確立
 - 経済5 北陸新幹線大阪延伸による大ゴールデン回廊形成と拠点性の強化
- (2) 世界に存在感を示す「とやまグローバル戦略」の展開 29
 - 経済6 「とやまグローバル戦略」の推進
 - 経済7 富山きときと空港における国内外の航空ネットワークの更なる展開
 - 経済8 選ばれ続ける観光地 富山
- (3) 個の力を磨き上げ、潜在力を高める人材戦略の推進 33
 - 経済9 生産年齢の引き上げによる高齢者の活用促進（「かがやき現役率」の向上）
 - 経済10 若者、女性、障害者活躍のためのキャリア促進

文 化

- (4) 地域文化が生活に溶け込む「生活文化デザイン王国」の形成 36
 - 文化1 アート・デザイン県とやまの創出
 - 文化2 未来へ示すクリエイティブな文化（クールトヤマ）の形成
 - 文化3 海・山近接の富山の魅力を活かした「中山間ニューライフコミュニティ」の形成による里山振興
- (5) 世界に開かれた「とやま文化」の発信 40
 - 文化4 世界への発信による「とやまの文化GDP」の拡大
 - 文化5 舞台芸術拠点「TOGA」による地域の活性化
 - 文化6 富山サポーターグローバルネットワークの構築
 - 文化7 とやま食文化の振興・展開
- (6) 文化芸術の力による「元気とやま」の牽引 45
 - 文化8 学校と地域でつくる文化の担い手育成
 - 文化9 芸術文化活動を通じた県民総活躍の場の創出
 - 文化10 文化芸術資源をもとにした文化芸術クラスターの形成

人づくり

- (7) 価値創造力を高める学校教育プログラムの確立 49
 - 人づくり1 未来のイノベーションを起こすために必要な人材の育成
 - 人づくり2 未来社会が求める人材を輩出する新たなキャリア教育システムの確立
- (8) ふるさと学習とグローバル教育の融合（Think global, Act local） 52
 - 人づくり3 富山が誇る「ふるさと富山」の探究
 - 人づくり4 郷土を学び英語で伝えるコミュニケーション能力の養成
 - 人づくり5 大学や高校におけるグローバルな教育環境の整備
- (9) 地域の生産性、問題解決力（地域力）の向上 56
 - 人づくり6 地域共生社会推進のための地域人材づくり
 - 人づくり7 健康寿命日本一とやま
 - 人づくり8 スポーツ活動を通じた県民総活躍の推進
 - 人づくり9 最先端地域交通システムによる交流促進
 - 人づくり10 最先端技術を活かした「防災先進県とやま」

I はじめに

県民の皆様の半世紀近い悲願であった北陸新幹線が開業してから間もなく1年半が経過しようとしています。県内各地で、観光客やビジネス客が大幅に増加し、企業の本社機能の移転や大型商業施設の相次ぐ出店など、その効果が顕著に現れています。北陸新幹線の開業は、富山県にとってひとつの大きなゴールではありますが、「とやま新時代」への新たなスタートでもあります。この「とやま新時代」にふさわしい、活力と魅力あふれるふるさとの創生を目指して、チャレンジしていくことが、今、求められています。

幸い、政府には、数年来の働きかけにより、地方創生を国政の重要テーマとしていただけたことから、昨年10月に「とやま未来創生戦略」を策定したところです。他方で、この戦略は当面5年間の計画であるため、今後、日本や世界で起きると想定される内外の潮流などを勘案しながら、富山県の10年、20年、あるいは30年先を見据えた長期ビジョンを策定することとしました。そのため、昨年秋から県内外の有識者からなる懇話会を設置し、さらには、将来の富山県を担う概ね30歳台のメンバーからなる青年部会を設けるとともに、県内3か所でのタウンミーティングなどを通じて、幅広い方々にご意見をいただいております。

今、日本は本格的な「人口減少社会」を迎えています。本県も同様に1998年（平成10年）をピークに減少局面に転じ、このまま推移すると、現在（H28.7）106.2万人が、2060年（H72）には64.6万人になると予測されています。県では合計特殊出生率の上昇や若者の社会移動の均衡により、2060年に80.6万人を維持する目標を掲げておりますが、こうした人口減少と少子高齢化の進展、生産年齢人口の減少といった課題を、富山県の将来像を掲げるうえで十分に認識しておく必要があります。一方、世界の人口は、かつてない人口爆発の時代を迎えています。また、インターネット等の情報通信技術の進化は、世界各地をリアルタイムで瞬時につなぎ、経済や文化のみならず地域における日常生活にも大きな影響を与えています。また、欧米を中心に、第4次産業革命の波が起こりつつあり、IoTやAI（人工知能）等による技術革新やビッグデータの利活用などにより、社会的課題を解決し、新たな産業を創出するものと期待されています。日本も富山県もこの波にしっかり対応していくことが大切です。他方で、こうした大きな時代の変化の中でも、生まれ育った富山県に愛着と誇りを持ち、ふるさとに心の根っこを置きながら、県内はもとより、全国や世界で活躍できる人材育成に取り組むことが、これまで以上に重要になっています。

こうした各般の議論を踏まえ、このたび富山県の経済、文化、これらを担う人づくりなどを中心に、概ね30年後の2045年を展望年次とした「富山県経済・文化長期ビジョン」を策定いたしました。ふるさと富山県の新しい未来の構想を県民の皆さんとしっかり共有し、富山県の新たな成長・飛躍に結び付け、活力と魅力あふれる県ひいては日本再生・再興の一翼、一端を担い得る県として、次の世代に継承・発展させていく確固とした基盤を構築していきたいと考えております。

終わりに、この長期ビジョンの策定にあたり、貴重なご意見をいただきました富山県経済・文化長期ビジョン懇話会及び青年部会の委員の皆様をはじめ、県民の皆様に対し、心から感謝申し上げます。



富山県知事
石井 隆一

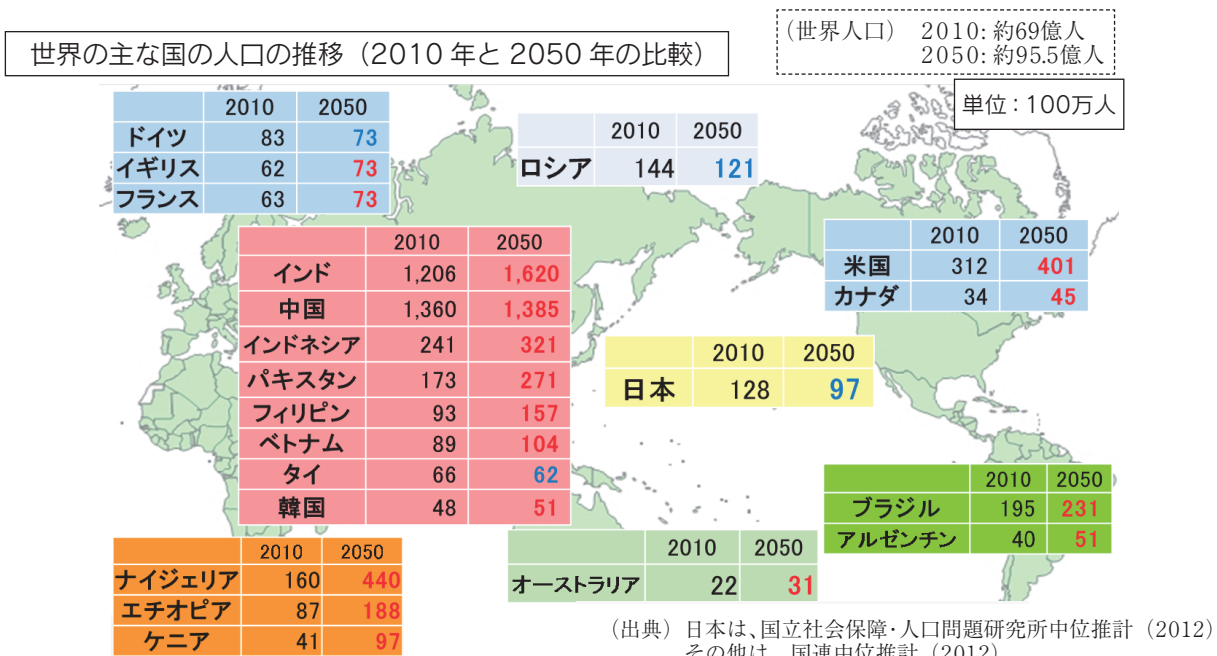
平成28年9月

II 基本的考え方

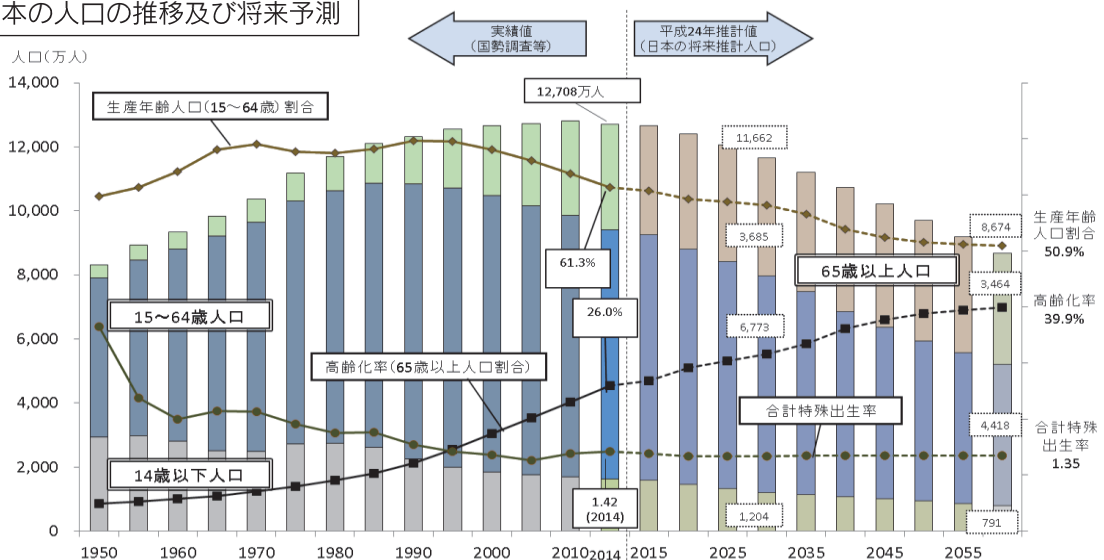
1. 内外の潮流

(人口の変化)

- 世界の人口は、特にアジア、アフリカを中心に増加し、2040年には90億人を突破し、2050年には約95.5億人となります。2030年頃にはインドが中国を抜きトップとなる一方、日本等の一部の先進国では人口減少が進むと予想されています。
- 日本は、2050年には人口が約9,700万人と現在（2015年、約1億2,700万人）より約3,000万人減少し、特に15歳から64歳までの生産年齢人口が約2,600万人減少する一方、65歳以上人口は約40%と世界で最も高齢化が進む国となります。今後、国際競争力を維持していくためには、一人あたりの生産性を高めるとともに、女性・高齢者の活用を促進する必要があります。



日本の人口の推移及び将来予測



(出典) 総務省「国勢調査」及び「人口推計」
国立社会保障・人口問題研究所中位推計（2012）
厚生労働省「人口動態統計」

(世界は一極体制から多極化に～パワーバランスの変化～)

(各国のGDP(実質))

○ 中国は、現在、経済成長が減速しているといわれていますが、2030年には中国が米国を抜き国内総生産がトップになると多くの民間調査機関は予測しています。冷戦終結後の世界では、アメリカが経済力でも圧倒的に優位でしたが、中国を含めた新興国等の台頭により、世界のパワーバランスは多極型へと変化しています。現在の成長を前提とすれば、2050年にはアジアのGDPが世界の約50%を占めることとなり、中国のほかアセアン、インド、ロシアなどとの交流を深め、ともに発展するという視点に立つ必要があります。

2010年		2030年		2050年	
米国	13,800	中国	19,675	中国	24,497
中国	7,996	米国	18,202	米国	24,004
日本	4,085	インド	8,584	インド	14,406
インド	3,493	日本	4,384	日本	4,057
ドイツ	2,800	ブラジル	3,014	ブラジル	3,841

単位:10億ドル

(出典) グローバルJAPAN 一般社団法人日本経済団体連合会21世紀政策研究所(2012)
※日本の生産性を先進国平均並みと仮定したケース

(第4次産業革命による技術革新)

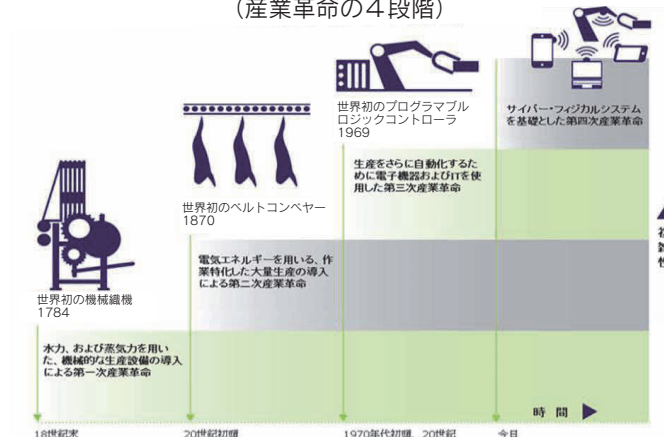
インターネット等の情報通信技術が進展し、ロボット技術の進展やビッグデータの活用などAIの導入に伴う第4次産業革命への対応が迫られます。一方で、労働生産性は著しく向上するものの、多くの仕事がロボットなどAI等で代替されることも予想されています。

製造業の労働生産性水準比較

	1989年	1999年	2009年
日本	16.5	26.9	37.8
米国	20.0	31.7	54.1
ドイツ	20.0	31.5	41.6
英国	15.0	23.0	34.3
フランス	18.3	29.9	40.2
韓国	4.4	13.4	24.2※

(出典) 経済産業省「通商白書」(2013年) ※2007年

第四次産業革命のイメージ
(産業革命の4段階)

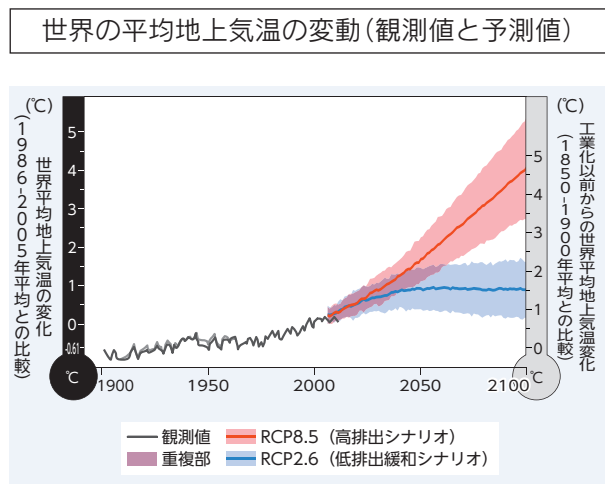
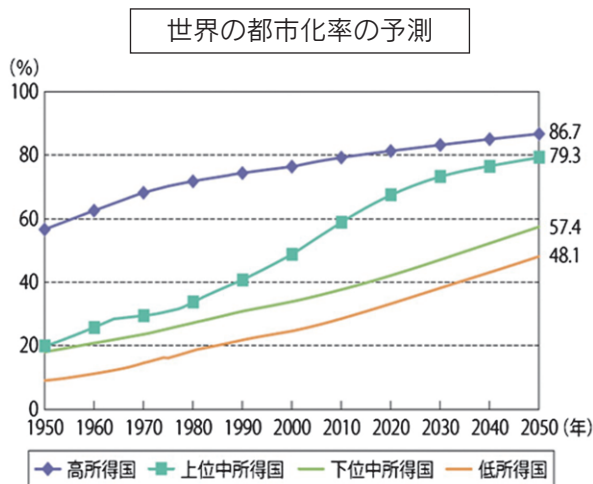


(出典) 経済産業省「ものづくり白書」(2015年)

(環境の変化、災害リスクの増大)

○ OECDの予測では気候変動の深刻化に加えて、2050年には、世界人口の約70%が都市部に居住し、大気汚染、交通渋滞、廃棄物管理などの課題が深刻化することとされています。特に温室効果ガスの排出が高レベルで続く場合、2100年には平均気温が2.6度から4.8度上昇することが見込まれています。気温の上昇が2度を超えると、地球上の降水パターンが変化し、氷河等の融解、海水面の上昇、異常気象の頻発等の問題が生じるといわれています。

- 日本においても、2030年頃には平均気温が約1度上昇、2100年頃には約4度上昇すると予測され、気候帯が400km程度北に移り、これまで経験しなかった感染症のリスクなど様々な問題を抱えることとなります。また、首都直下地震、南海トラフ巨大地震の30年以内の発生確率が70%と予測されるなど、大規模災害リスクも抱えています。



(出典) 環境・循環型社会・生物多様性白書 (2014)

2. ビジョンの性格

(未来を構想するビジョン)

- 現代はこれまでにないスピード感で、時間の希少性は一層際立っており、目先の短期的思考の広がりがあり、ときに重要な課題を見過ごし、後回しにしてしまいがちな傾向にあります。目前の課題にスピード感を持って対応すると同時に、未来社会をあえて予見しながら富山県の将来にカスタマイズして、あるべき富山県の将来像と採るべき方策をまとめたビジョンです。

(県民と県が将来像を共有するビジョン)

- 人口減少、世界経済の多極化、第4次産業革命による技術革新、地球環境問題など国内外には様々な課題が山積しています。将来に向けた県づくりは、県のみならず県民の皆さんとチーム富山で力を合わせ、連携協力していくことが重要です。2045年という中長期的な将来像の実現に向けて、県づくりの道しるべを県民と県で共有するビジョンです。

なお、「とやま未来創生戦略」は当面の実効性ある政策を行うことにより、人口減少に歯止めをかけ、地方創生を推進するものですが、このビジョンでは、目指すべき将来像の実現とともに、「富山県人口ビジョン」の推計人口(2060年:80万6千人)を確実に達成するための狙いも兼ね備えています。

(富山県の強みを磨き、活かしていくためのビジョン)

- 富山県には国内外に誇れる優れた基盤、魅力が数多くあります。県民の長年にわたる悲願であった北陸新幹線開業を契機に、富山県の強み、優位性を改めて見つめ直し、それをさらに磨き、活かしていくとともに、課題を克服し強みに変える富山ならではの戦略的な政策を進めるためのビジョンです。

3. 策定の背景

(1) 現時点で予測可能な富山県のすがた（仮説）

- 現時点で予測される未来社会を富山県の将来に適合させて、将来像や採るべき展開方向を考察した仮説の例を下表のとおり示しています。

予測可能なトレンドがもたらす将来の富山県のすがた（仮説）

	経 済	文 化	人 づ くり
人口の変化	<ul style="list-style-type: none"> ○生産年齢人口の減少により、経済活動における生産性の向上が求められる ○生産年齢人口(15歳～64歳)の再定義が必要となる ○労働人口減少に伴う、女性・高齢者就労促進の重要性が増す(ロボットスーツを着用し、高齢者の重作業が可能となる(介護、農業、サービス業)) ○超高齢化社会の到来により、新たな健康長寿産業を創出するチャンスが拡大する ○人口爆発の途上国支援に向けた新しいビジネスモデルの要請が高まる ○人口減少に伴う無居住地区を活用した新たな県土再生方策の構築が求められる 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちへ、本物の文化活動への接触機会が多く与えられる ○高齢者のセカンドライフとして、文化活動への必要性が高まる ○地域文化、地域資源の継承が重要となる 	<ul style="list-style-type: none"> ○知識偏重教育からイノベーションを生み出す教育が求められる ○児童生徒の減少に伴う小中高校の在り方の見直しが必要となる ○女性・高齢者を対象とした生涯教育が重要となる ○地域医療・介護の効率化に対応した人材育成が求められる ○IT教育の拡充、情報分析力の向上が求められる ○アジア留学生の受入が増加する
劇的な技術革新の進展 環境の変化 災害リスク	<ul style="list-style-type: none"> ○IoTの進展、ロボテックス、再生医療、省エネ、医療機器などの革新技術により、本県ものづくり産業の新産業創造の可能性が広がる ○ビッグデータの活用により最適化が進み、起業のチャンスが生まれる ○アジア途上国の環境問題に貢献するため、県内廃棄物処理技術が必要とされる ○地球温暖化により、熱帯性感染症など新たな病気への対応が必要となる ○農林漁業のICT化や生産性向上により、新たな雇用が生まれる ○日本海メタンハイドレートの活用が期待される ○農林産物を使用した医薬品・医療薬新素材の実用化(薬用植物など)が期待される ○バイオ技術の深化により、寒冷地に新たな作物の農地が開拓される ○危機管理や新幹線開業の観点から、首都圏からの企業立地が進む 	<ul style="list-style-type: none"> ○住民生活の利便性が向上し、生活の質が向上することで、文化への意識が高まる ○ICT技術などを取り込み、教育現場と文化施設をネットワーク化するなどして、クリエイティブな場づくりへの取組みが可能となる 	<ul style="list-style-type: none"> ○新産業創出や文化施設の活用を支援するプラットフォームの形成が重要となる ○異分野交流、専門分野以外の交流が一般化する ○国内外からクリエイティブクラスの人材誘致が求められる ○健康寿命の延伸により、高齢者の活躍が期待される ○災害に強い、自然豊かな富山県の価値が高まり、移住が促進される ○コンピューターの仕事を奪われないためのリカレント教育が求められる
グローバル化(フラット化)	<ul style="list-style-type: none"> ○TPPなど産業障壁がフラット化し、県内製品の輸出が促進される ○数値化できるような性質・品質の向上だけでなく、消費者に感動、物語などの付加価値が必要とされる(スイスのようなものづくり産業) ○多言語翻訳機の普及など、「言葉の壁」が克服される(観光産業の後押し) ○北陸海航路の構築など海上輸送のスピード化が進む 	<ul style="list-style-type: none"> ○自国文化への理解、リベラルアーツの必要性が高まる ○アジアを中心に日本文化に対する関心が高まる ○地域間競争がますます激化し、ローカルブランディングの重要性が増す(本県の強みを国内外に発信) 	<ul style="list-style-type: none"> ○愛郷心向上とグローバル教育を併せ持った人材育成が求められる ○留学機会の増加が求められる ○地方がグローバル化を総合的に取り組むための環境づくり
北陸新幹線大阪延伸を含めた交通基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ○新ゴールデンルートが確立され、富山県へのヒト、モノの流動性が飛躍的に高まる ○地方観光業が発展し、新たな雇用を生む 	<ul style="list-style-type: none"> ○富山の文化に興味をもった定住者(外国人)が増加する 	<ul style="list-style-type: none"> ○移動時間短縮による生産性向上(東京・大阪双方の時間短縮) ○車の全自動運転が促進され、車社会の在り方が変わる

(出典) 富山県経済・文化長期ビジョン懇話会青年部会
第2回資料 (2016/1/15)

(2) なぜ2045年を展望年次とするのか

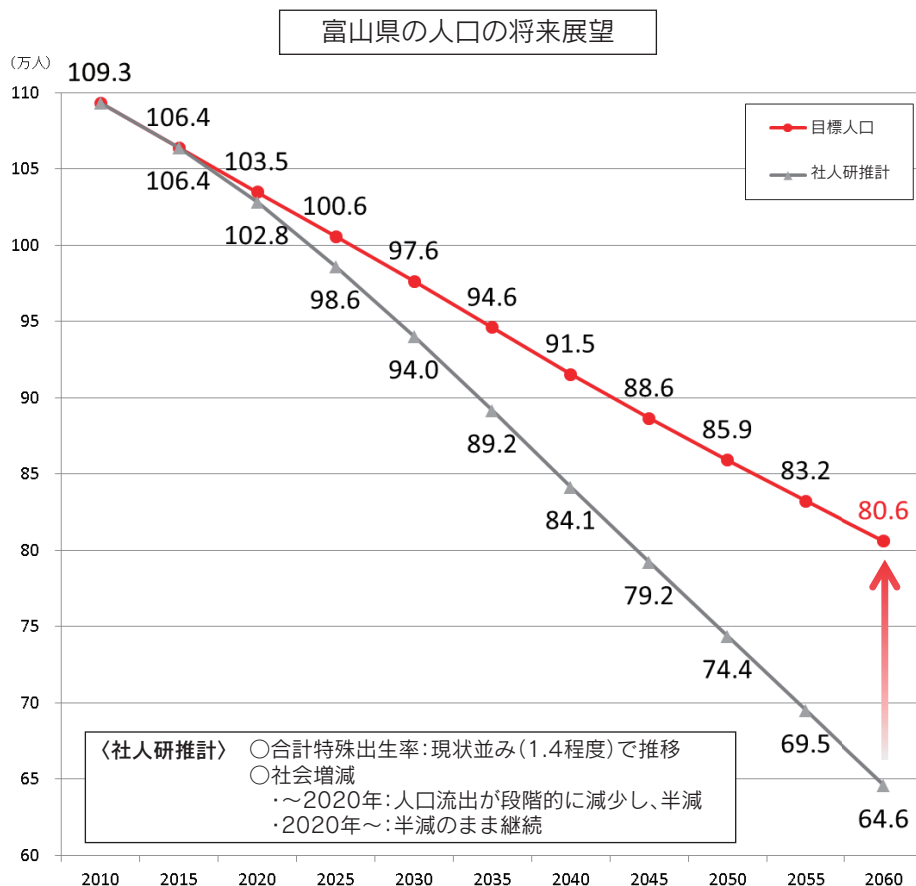
- 今、産まれてくる子どもたちが社会人となるまでには、20年、30年の年月が必要となります。こうした子どもたちのために、今、何をしなければならないか、あるいは今、どんな種をまいておけば、20年、30年先に花が咲いて実を結ぶかの認識を県民の方々と共有し、実行していきたいと考えています。
- また、30年後の2045年頃は、富山県において、政策的対応を行えば、いわゆる「肩車型社会」が和らぐ方向へ進み、老年人口の割合が減少し、年少人口と生産年齢人口の割合が増加することとなる人口構成の転換点であり、同年を展望年次としてビジョンを組み立てることとしました。

■ (参考1) 富山県における本格的な人口減少社会の到来とそのピーク

- 富山県の人口は1998年をピークに、2014年には106.7万人とピーク時よりも5.9万人減少しています。(日本の人口は、2008年をピークに減少に転じ、2014年は1億2,700万人とピーク時よりも約100万人減少しています)
また、富山県人口ビジョンでは、政策的対応を行い、将来の富山県の人口の目標を2060年に80.6万人を維持する前提で、約30年後の2045年の人口を88.6万人と見込んでいます。

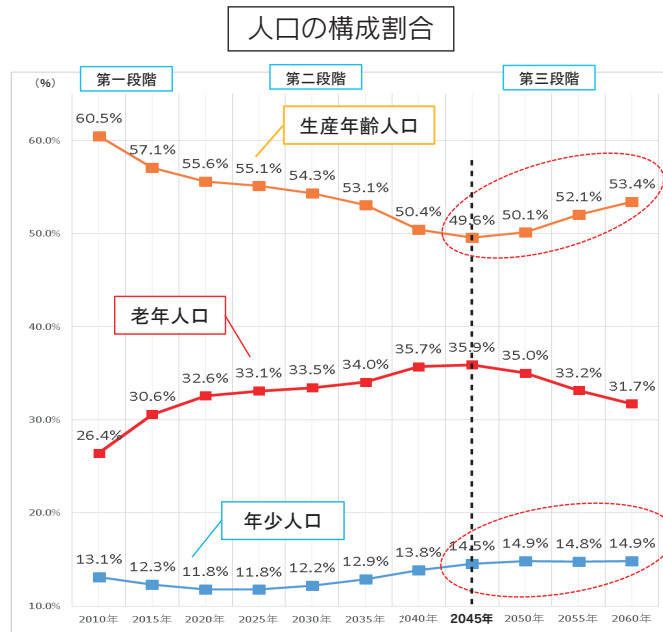
※富山県人口ビジョンの推計条件

- 合計特殊出生率：2030年に希望出生率1.9を達成、2040年に人口置換水準2.07を達成（その後も維持）
- 人口移動：2020年までに若者世代の転出超過が段階的に改善、2020年に移動均衡（その後も継続）



(出典) 富山県人口ビジョン (2015)

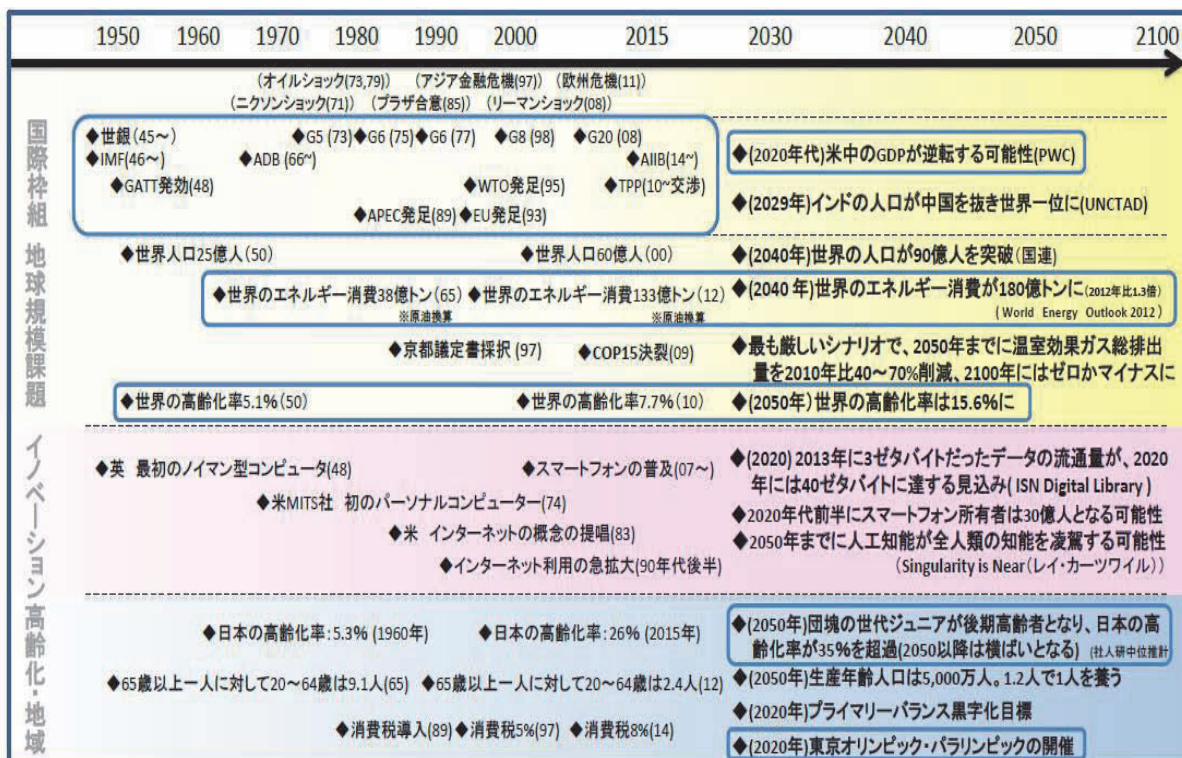
- 富山県の人口減少段階（富山県人口ビジョンにおける将来展望）を見ると
 - ①2020年までは、「年少人口」及び「生産年齢人口」の減少する中で、老年人口が増加する「第1段階」
 - ②その後、「老年人口」が維持・微減となる「第2段階」
 - ③さらに、2045年ごろには、「老年人口」も減少していく「第3段階」へ進行すると見込まれています。



(出典) 富山県人口ビジョン (2015)

■ (参考2) 国における中長期的な展望の必要性

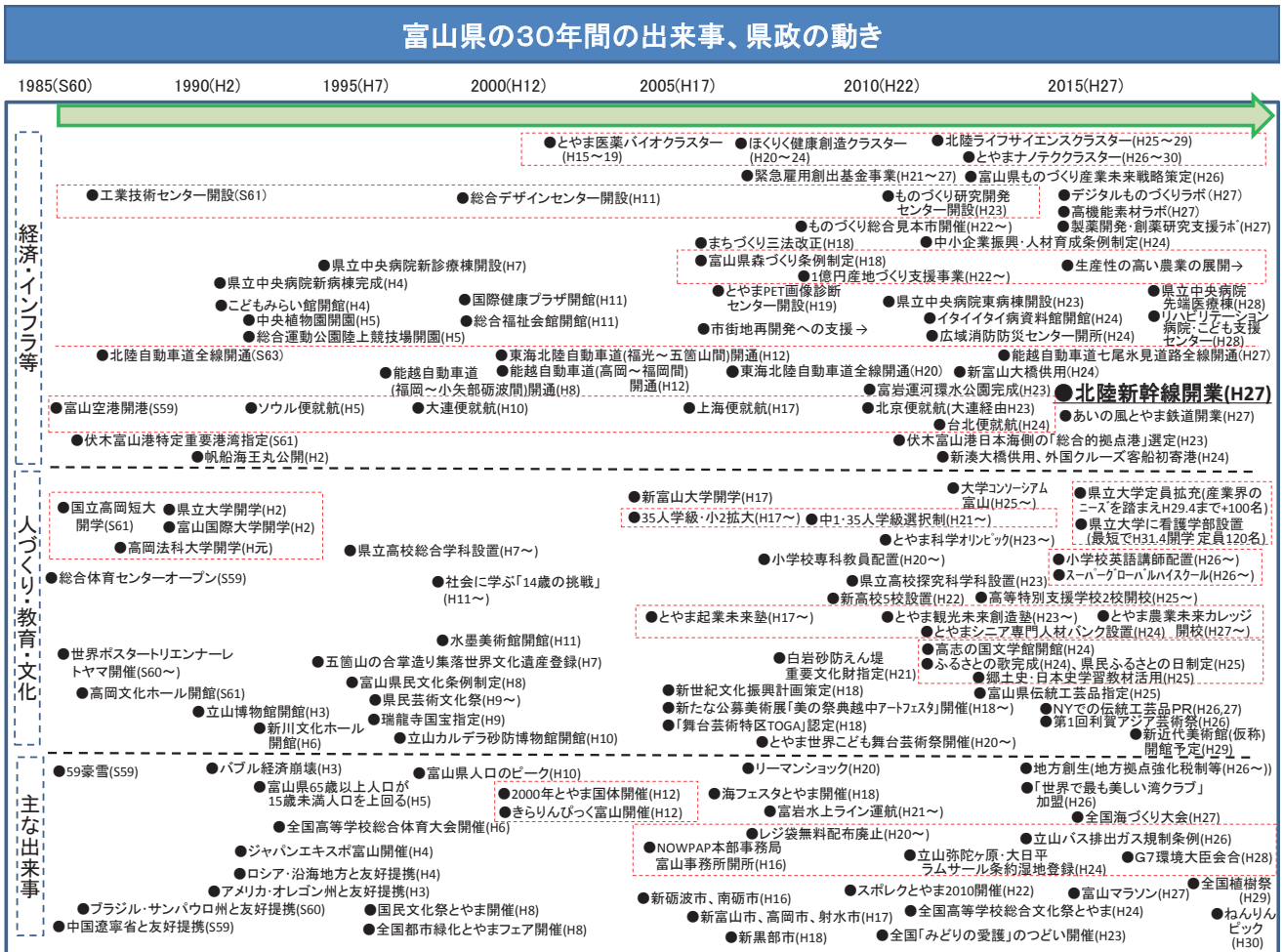
- 国においても時代潮流を踏まえ、国際的枠組、地球規模課題の顕在化、技術革新などの構造変化を見込んでおり、中長期的な視座に立った政策の必要性を指摘しています。



(出典) 経済産業省産業構造審議会第16回資料 (2015/ 4/ 27)

■ (参考3) 富山県の30年間の出来事、県政の動き

○ 本県においても、これまで、社会情勢に対応しながら、経済・インフラ、人づくり・教育文化などの政策を進め、富山県の新たな地域特性の創出に努めてきました。今後、世界、日本の中長期的な大きなトレンドを見据えた富山県の確固たる将来ビジョンが必要といえます。



(出典) 富山県経済・文化長期ビジョン懇話会第2回資料 (2015/12/3)
※赤枠は、関連する分野について分類してまとめたもの

(3) 富山県の強みを最大限発揮する

国内外の社会経済情勢が大きく変化する中で、富山県が持続的に発展していくために、富山県が備えている強みと課題をしっかりと認識、共有、評価し、将来の県づくりを構想していくことが重要です。

(勤勉でチャレンジ精神旺盛な県民性)

○ 三方を山に、前面を海に囲まれる稀有な地形において、四方から異なる文化がぶつかり合い混合する独特の風土の中で、急流河川の治水に取り組んできた歴史的な背景等から、富山県の強みである勤勉でチャレンジ精神旺盛な県民性が培われてきました。日本の中でもトップクラスの就業率、県民所得の高さはそれを根拠づけています。そして、その人材は、豊富な水力発電等の自然の恵みとともに、日本海側屈指の工業集積を支える基盤となっています。

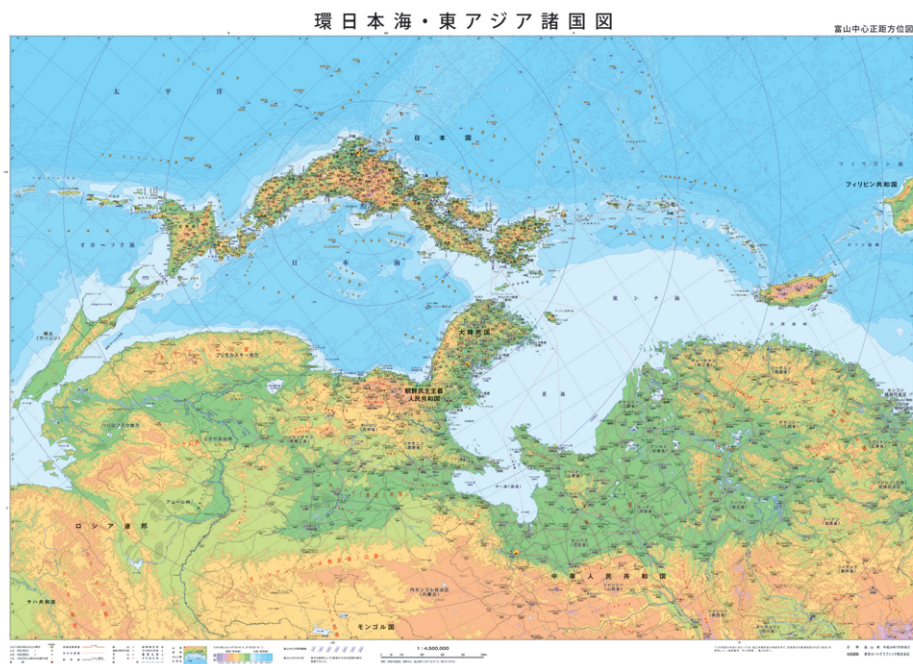
- 一兆円産業の夢がふくらむ「くすりの富山」。そのルーツである300年を超える歴史と伝統を有する「富山売薬」は、交通の不便な江戸時代後期、西廻り航路の活用と先用後利による積極的な販路開拓により、富山から陸路・海路の両面で、当時としては奇想天外ともいえる全国行商の販売ルートを確立しました。先用後利の手法は国内のみならず途上国でも活用され、富山県人の進取の気性の象徴ともなっており、「くすりの富山」を日本遺産として登録しようという動きにもつながっています。こうした土台がさらに活かされ、「世界に羽ばたく薬都とやま」の実現に向けての躍進が期待されています。

(美しい自然、豊かで清らかな水、美味しい食)

- 富山県は雄大な立山連峰、世界で最も美しい湾クラブに加盟した富山湾などの美しい自然環境、さらには豊かで清らかな水と新鮮で美味しい食、多くの観光資源に恵まれています。北陸新幹線の開業により、こうした魅力は国内外でも高い評価を得つつあり、富山県の強みとしてさらに磨き上げ、掘り起し、発信していく必要があります。

(アジア大陸に向けた日本の玄関口)

- いわゆる「逆さ地図」(「環日本海・東アジア諸国図」)は、その中心に位置する富山県がアジア大陸に向けた日本の玄関口であることを示しています。富山県はこの地の利を活かし、中国、台湾、韓国、ロシアなど環日本海諸国との間で、これまで様々な経済活動や文化的交流を進めてきました。



(伝統文化の継承、クールジャパンの基盤)

- 伝統文化が継承され、文化的基盤が生活の中に溶け込んでいるという点も強みといえます。伝統的な祭りや、獅子舞に加え、国際的に評価が高い舞台芸術等が県内各地で催されています。また、伝統的な文化にとどまらず、漫画、アニメなどクールジャパンの基盤ともなるクリエイティブな文化も生み出されています。作者が富山県出身のドラえもんは老若男女が楽しめる漫画、テレビ番組であり、昭和時代から今に至るまで親から子へ引き継がれ、現在ではアジア諸国等の人にも広く受け入れられています。また、映画、音楽などの様々なジャンルの面でも多くの映画監督、プロデューサー等を輩出しています。

(全国トップクラスの暮らしやすさ)

- 富山県は、今から133年前の明治16年5月9日、石川県から分離して誕生しました。誕生当時は、水害など災害も多く、全国的に貧しい県の一つといわれていましたが、先人の不断の努力を通じ、今では一人当たりの県民所得は全国トップレベルです。また、過去の自然災害を経て習得した砂防技術等に代表される災害への備え、良質な水資源と安価な電力、高速道路網や、富山きときと空港、伏木富山港などの交通インフラも充実しています。さらに、住居、医療・介護の基盤、保育所等の子ども関連の施設・サービスといった生活のための基礎的なインフラが充実し、土徳という言葉でも表される地域における土地と人のつながりや人と人との絆が色濃く残るなど、全国でもトップクラスの暮らしやすい県となっています。都道府県幸福度ランキング（2016・日本総研）では総合全国3位、持ち家率、戸あたり延面積（1位）、保育所待機児童ゼロ、生活保護率の少なさ（1位）、火災や重要犯罪の件数の少なさ（1位）、道路整備率（1位）など幅広い分野で高い評価を受けています。



(人づくりに傾注し、「教育県とやま」を継承・発展)

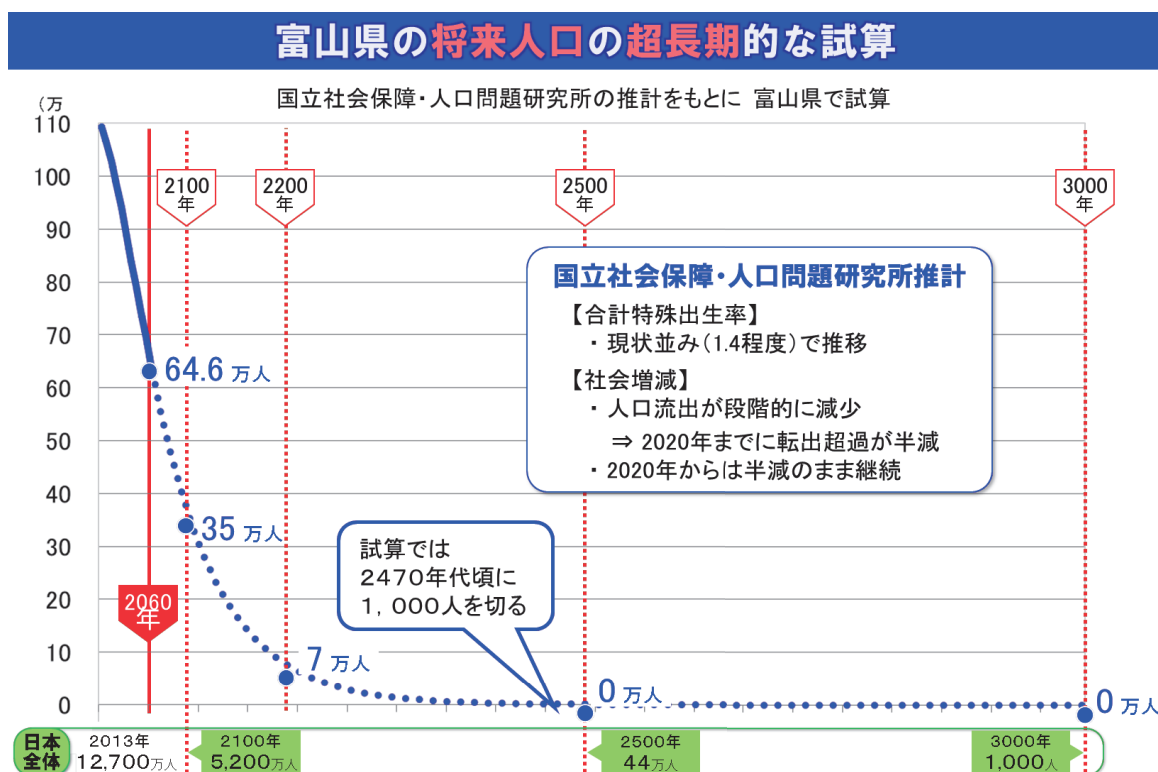
- 自然との闘いを克服してきた先人の努力は、急流河川を富山県発展の資源に転換しました。貧しい県とされた本県は「人こそが資源」であり、人づくりに傾注してきた取組みは国内外で活躍する数多くの人材を輩出する土壌、「教育県とやま」を作り上げました。積極進取で教育熱心な県民性は今も引き継がれ、全国トップクラスの図書館や美術館、公民館など充実した教育環境を整備し、学校、家庭、社会が連携して取り組む中学生の職場体験「14歳の挑戦」、志を持って起業にチャレンジする方々を支援する「とやま起業未来塾」など、県民総ぐるみで「人づくり」を支える風土が根付いています。教育にかける情熱は、社会的に成功を収めた多くの先人が、教育に私財を還元している行動にも表れています。

(控えめな県民性、魅力発信)

- 一方で、控えめな県民性から、富山県の魅力を国内外に積極的に発信し、経済や文化を活性化するという発想が不足しているといった指摘を受けることがあります。北陸新幹線開業を契機に「県民が明るくなった」とのご意見も耳にします。さらに国内外へ富山県の魅力を大いにアピールしていくことを県民の皆さんとともに取り組んでいくことが重要です。

(「強み」の最大限の発揮)

- 北陸新幹線開業で大都市圏との心理的、物理的な距離が縮まったことに加え、グローバル化の進展、情報技術網の発達、第4次産業革命によるイノベーションなど、急激な社会環境の変化に対応した急進的な変革が迫られます。経済に関しては、世界トップクラスの戦略的な研究開発を進めるとともに、文化に関しては、観光や産業活動とも連携して文化の魅力で富山県に人を呼び込むことが必要となります。また、人づくりに関しては、生涯にわたりキャリアアップが可能となるよう教育や能力開発を充実させるとともに、様々な人々が支え合い共生し、ダイバーシティを尊重した多様性のある社会を実現することが重要です。
- 特に、富山県では全国よりも早い時期から人口減少が急速に進み、何も政策的対応をしなければ、2100年には現在のおよそ3分の1の35万人、2500年には人口がゼロになるという試算があります。



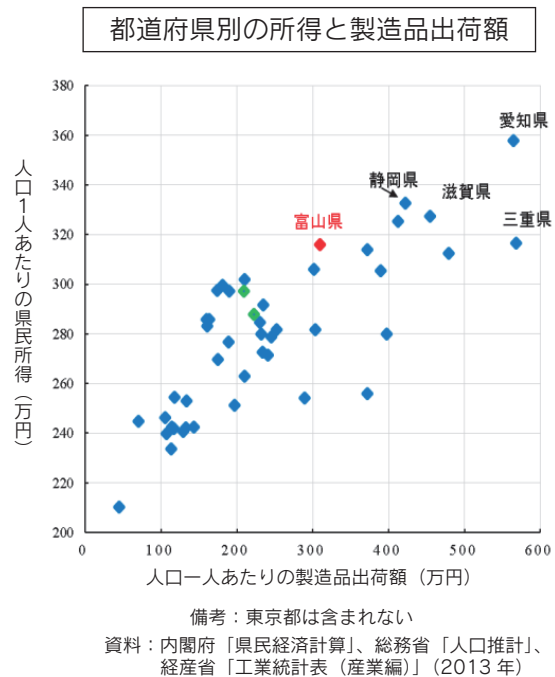
- 富山売薬とドラえもんは、世代を超え、時代を超え、文化・国境を越えた普遍性を持っています。富山県人が培ってきた勤勉性とチャレンジ精神を今こそ喚起し、人口減少等の問題を解決し、世界に通じる新たな価値を創り出すことが必要です。また、地域コミュニティがぜい弱化している中、人と人とのつながり、地域と地域とのつながり、いわば信頼力を再構築し、家族や地域の絆を大切にしながらコミュニティの再生や地域の活性化に活躍する人材を育成することが必要です。

4. 策定に当たっての視点

ビジョンの策定に当たっては、本県の10年、20年、30年先を見据え、以下の6つの視点を踏まえつつ、目指すべき将来像と採るべき展開方向を組み立てることとします。

(1) 経済と文化の相互作用と新たな価値創出

県民一人ひとりが輝いて生きられる「元気とやま」の創造のためには、まずは経済・産業の成長が重要です。中でも富山県の経済を発展させていくためには、観光振興なども重要ですが、本県産業の背骨ともいべき製造業の新たな発展・飛躍を図ることが必要不可欠です。また、ものの豊かさを追求する経済力に併せて、県民が元気にいきいきと暮らしていくために、ソフトパワーである文化の力で心の元気を生み出すこと、例えば、製造業の発展を図る上でもデザイン等と結びついた付加価値の高い製品を開発するなど、経済と文化が相互に作用して新たな価値を創出することが重要です。幸い本県には、国際的にも誇れる文化、文化活動、文化財を有しています。経済の発展に伴い、文化の力が生み出され、文化の力が加わることによって経済が新たに発展・飛躍するという複眼的視点に立つことが必要です。



(2) 第4次産業革命への対応

第4次産業革命に対応し、労働生産性を高め、新たな付加価値を生み出すためには、産業構造、就業構造、さらには変革に対応した人材育成など、迅速かつ柔軟な経済社会システムの再設計が求められます。

第4次産業革命による就業者数の変化の予測

※2015年度と2030年度の対比

	現状シナリオ	変革シナリオ
全 体	-735万人	-161万人
上流工程（経営・商品企画、マーケティング、開発等）	-136万人	+96万人
製造・調達（製造ライン等）	-262万人	-297万人
営業販売（高度なコンサルタント・付加価値の高い商品販売等）	-62万人	+114万人
営業販売（定型商品の販売等）	-62万人	-68万人
サービス（高級旅館・レストラン接客、きめ細かな介護）	-6万人	+179万人
サービス（定型的で省力化等が可能な分野）	+23万人	-51万人
IT業務（製造業のIoT化、セキュリティ強化）	-3万人	+45万人

（出典）経済産業省「新産業構造ビジョン」（2016）より抜粋し、一部修正

本県はこれまで、低廉な電力と豊富な工業用水に支えられ、富山新港など臨海工業地帯の整備によるアルミ産業の発展、テクノポリス地域の指定を踏まえたハイテク関連企業の立地、さらには高いものづくり技術を活かし、医薬品、ロボット、IT関連分野などの最先端のものづくり企業の振興により、日本海側屈指の産業集積を築いてきました。時代の変革に的確に対応してきた地域特性を活かし、第4次産業革命に対応した新産業の創出、人材育成に大胆に対応していく必要があります。

(3) グローバル化への対応、発信力の強化

中国を含めた新興国等の台頭により、世界のパワーバランスは多極型へと変化しています。特に、中国のほかアセアン、インドなどが世界における経済上の存在感を増すと考えられる中、こうした国々との物的・人的交流を深め、ともに発展するという視点が重要です。

また、グローバル化の中では、各地域が価値観の多様性を互いに認め合うことが重要です。個人が自らのふるさと、文化に矜持を保ちながら、世界を俯瞰し、多様な価値観を備えることがグローバル社会を切り開くために必要な素養といえます。富山県においてもグローバル化の波に埋没することなく、地域のオリジナリティをしっかりと堅持し、発信力を強化していくことが重要です。



※富山県はインド（アンドラプラデシュ州）と平成27年12月11日に協定締結（経済・医薬品産業・文化・観光・人的及び学術の交流を推進）

(4) 「富山アイデンティティ」の継承

勤勉で進取の気性に富む県民性、持ち家率や三世同居率、老人クラブ加入率の高さなど土地や家に対する強い愛着、雄大な立山連峰や神秘的な海富山湾などの美しい自然環境、豊かで清らかな水と新鮮で美味しい食などが「群」となって、全国トップクラスの暮らしやすさを形成している点が、富山県のアイデンティティ（個性）といえます。一つの山がそびえる富士山と異なり、立山連峰に生まれた「群」をなす「富山アイデンティティ」に、不変なもの、守るべきものが見えてきます。富山県人が培ってきた県民性、大地が織りなす豊かな自然などの富山アイデンティティを、守るべき軸として後世にしっかりと受け継ぐことが大切です。



雷鳥沢野営場から見た立山連峰



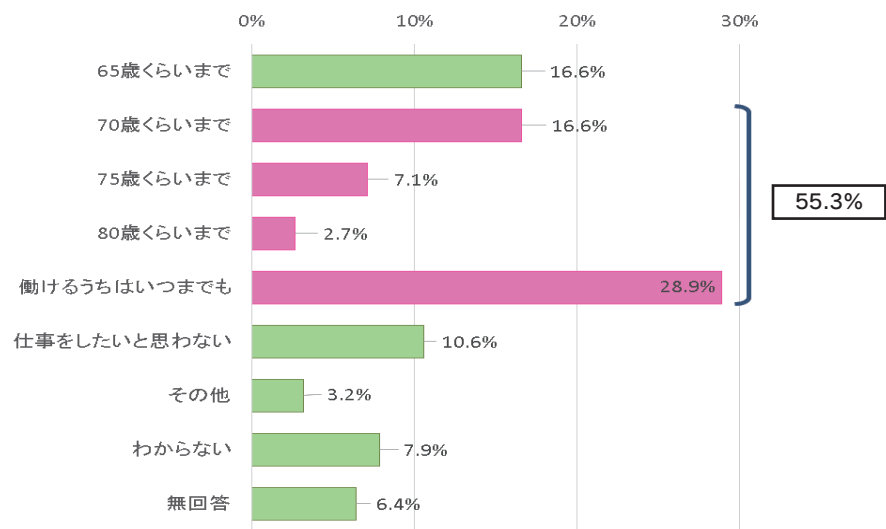
雨晴海岸から見た立山連峰

(5) 地域における多様な人材育成

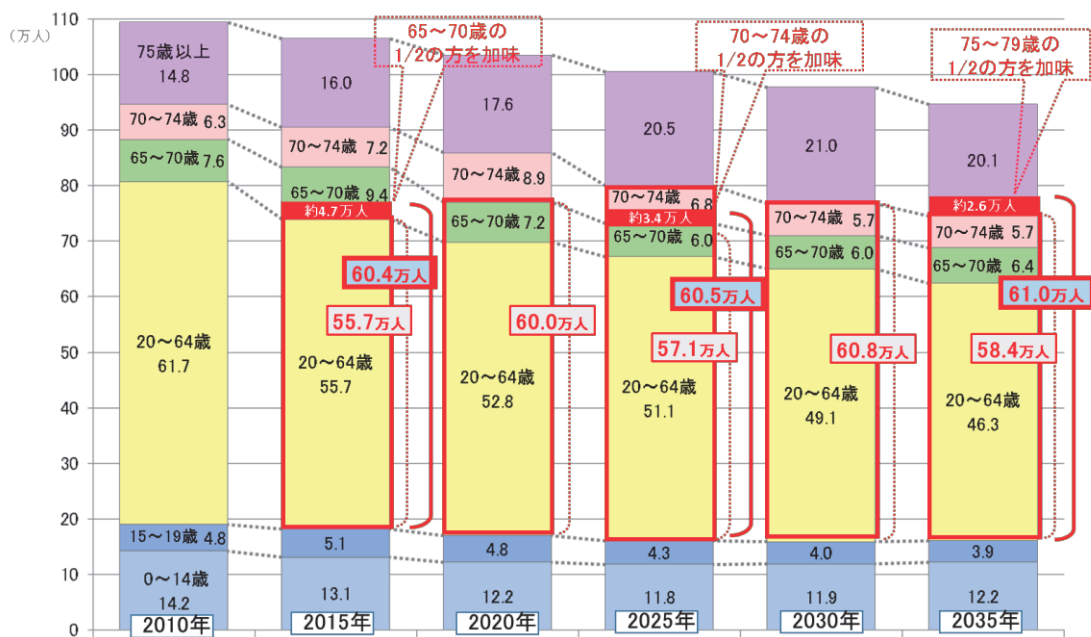
1950年当時、日本人の平均寿命は60歳に達していませんでしたが、現在は男性約80歳、女性約86歳で、20世紀後半の50年間に30年近く延びたこととなります。これは「寿命革命」と呼ばれ、人生90年時代も遠くない未来といえます。高齢になっても健康で生きがいを持ち、意欲や能力に応じて積極的に参加し活躍できる「エイジレス社会（生涯現役社会）」の実現に向けた取組みを進めていかなければなりません。

富山県の高齢化率は約30.5%と全国平均（約26.7%）よりも高い現状にありますが、健康寿命を延伸し、現役で働く高齢者が順次増えると概ね60万人の労働力を確保することが可能となるという試算も成り立ちます。

国民の就労希望年齢(H26内閣府調査:全国の60歳以上の男女)

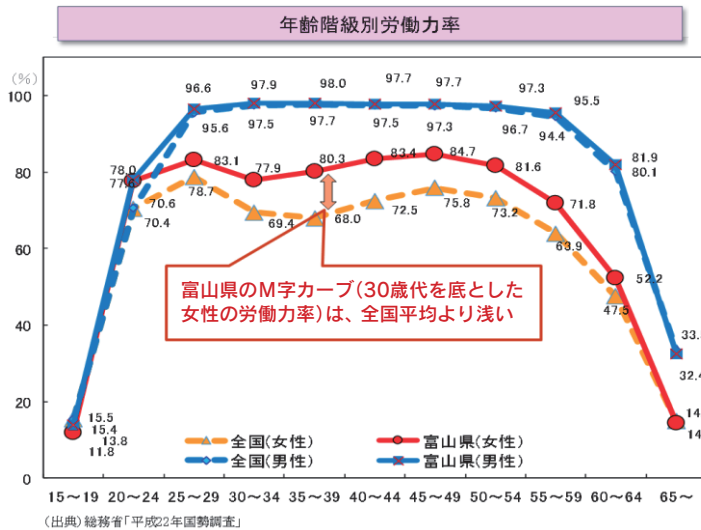


生産年齢人口の再定義が必要



(出典) 富山県人口ビジョン (2015)

また、若者、女性、障害者など地域で活躍する多様な人材を育成することが肝要です。とりわけ、女性に一層能力を発揮していただくため、出産や子育てを機に離職した方の再就職支援や男女共同参画の推進など女性の活躍推進に向けた環境づくりを推進しなければなりません。



管理的職業従事者に占める女性の割合

	H17	H22
富山県 (全国順位)	4.8% (30位)	5.7% (44位)
全国平均	5.6%	7.3%

小・中・高等学校における女性校長の割合

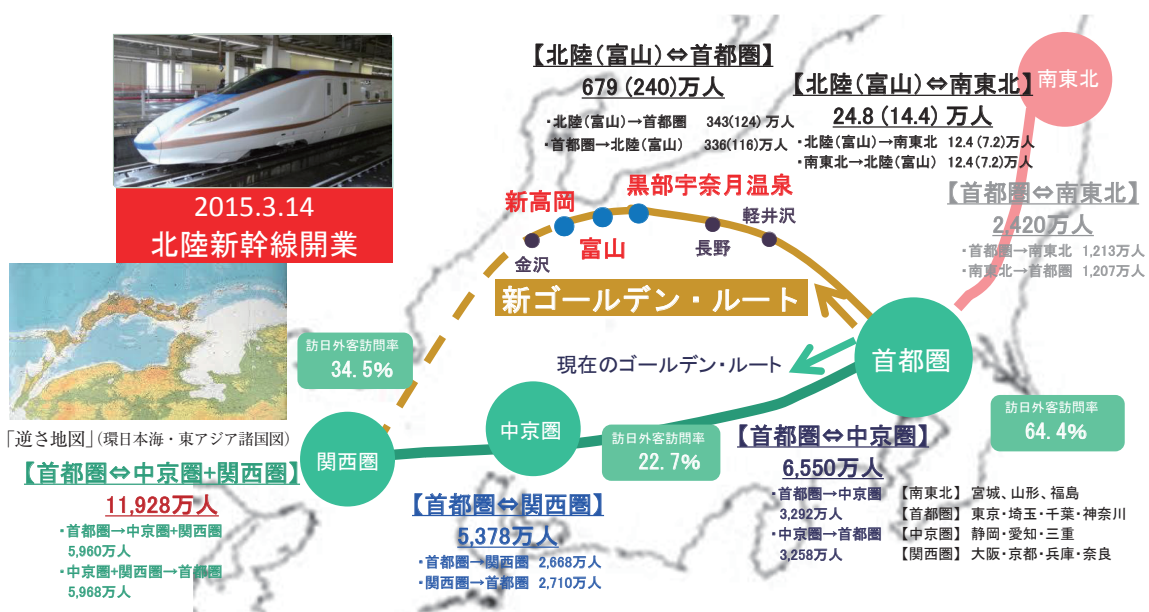
	小学校	中学校	高等学校
富山県(H27) (全国順位)	28.6% (4位)	11.3% (3位)	7.3% (22位)

県庁の女性職員の管理職登用の割合

	H20	H26	H27	H28
富山県 (全国順位)	4.9% (16位)	8.2% (9位)	9.8% (5位)	11.0% (5位)

(6) 新ゴールデンルートの形成から「大ゴールデン回廊」の創出

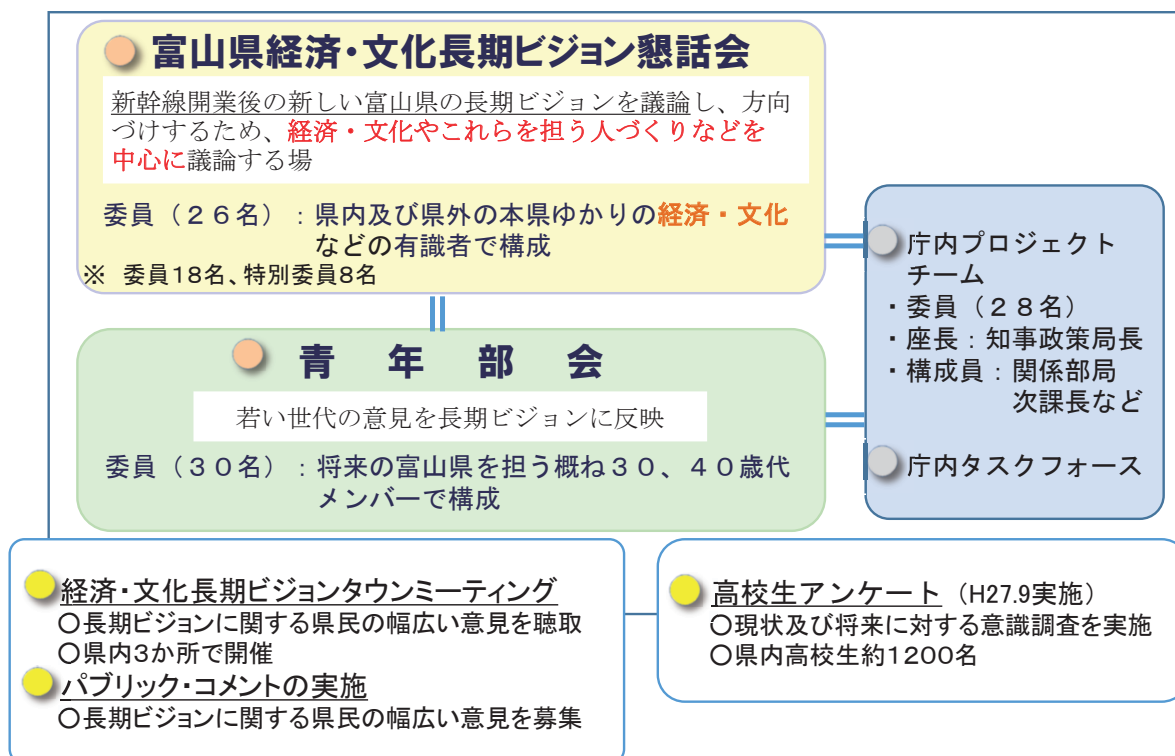
北陸新幹線が大阪まで開業すれば、北陸経由で首都圏と関西圏を結ぶ新しい「ゴールデンルート」が形成されます。現在の太平洋側のルートと合わせて、日本の人口の約半数(6,500万人)を占める世界的な経済・文化圏である「大ゴールデン回廊」を創出し、自然、文化、産業、食など多彩な魅力を有する富山県をはじめとする北陸がその回廊の重要な一角を担うとともに、富山県が環日本海の拠点県として、人が輝いてクリエイティブに生きられる健康日本一の県として世界から注目されるよう各般の施策を進める必要があります。富山県は環日本海地域のリンクと「大ゴールデン回廊」のリンク、二つの大リンクの接点という極めて恵まれたポジションに位置しています。地政学的なポテンシャルを大いに活かして、富山県の新たな飛躍に結びつけることが重要です。



Ⅲ ビジョンの構成

1. 策定体制、経過

- 平成27年10月に「富山県経済・文化長期ビジョン懇話会」、11月には次代を担う若者を対象とした「青年部会」を設置し、各々4回の会議を開催し、将来像に向けたご意見や展開方向について様々なご提言をいただきました。



○策定スケジュール

平成27年9月	高校生アンケート実施
10月	第1回富山県経済・文化長期ビジョン懇話会（10/16）
11月	第1回青年部会（11/9）
12月	第2回富山県経済・文化長期ビジョン懇話会（12/3）
平成28年1月	第2回青年部会（1/15）
3月	第3回青年部会（3/4）
4月	第3回富山県経済・文化長期ビジョン懇話会（4/12）
6月	第4回青年部会（6/24）
7月	第4回富山県経済・文化長期ビジョン懇話会（7/15）
7月～8月	タウンミーティング（県内3ヶ所） パブリック・コメント（8/8～8/23）
9月	「富山県経済・文化長期ビジョン」策定

2. 3つの将来像

- 懇話会等での各委員からのご意見、ご提言を踏まえ、さらには今後の世界の大きなトレンドなどを参考に、展望年次である2045年における富山県の3つの将来像を以下のとおりとします。

【将来像1】	【将来像2】	【将来像3】
<p>新たな価値創造2045</p> <p>第4次産業革命による技術革新、温暖化への対応、質の高い新たな文化の創造、未来社会に向けた人材育成など、新たな価値を創造し続ける、と同時に、守るべきものを守り、あるものを活かす社会</p>	<p>グローバル&ローカル2045</p> <p>「グローバル&ローカル」の融合により、新たなイノベーション、洗練されたデザインによる新製品、新サービスや、磨き上げた質の高い文化や人材などの魅力(ソフトパワー)により、国内外から人や企業が集積している社会</p>	<p>人・地域が輝く2045</p> <p>すべての人のキャリアアップの環境が整備され、誰もが文化活動に参加し、才能ある多様な人材に溢れている。若者、女性、高齢者など多様な人材や地域力が研磨され、ダイバーシティを尊重する心豊かな県民が集い、経済と文化が響きあい共生している社会</p>

3. 9つの展開方向、30の新たな構想、3つのテーマ別政策目標

- 将来像の実現に向けては、9つの展開方向と「30の新たな構想（リーディングプロジェクト）」を掲げるとともに、各構想を戦略的に推進するため、経済、文化、人づくりのテーマ別に政策目標を設定します。

9つの展開方向、30の新たな構想、3つのテーマ別政策目標（概要）			
	経 済（10の構想）	文 化（10の構想）	人づくり（10の構想）
新たな価値創造2045	<p>1 生産性向上と新たな価値創造の創出</p> <p>労働力減少に対応した生産性向上とストックを活かした新たな需要創出を図る「とやまバリュー」の創出</p> <p>(1)第4次産業革命を勝ち抜くための製造・研究開発拠点の整備 (2)環境・エネルギーフロンティア富山の創造 (3)バイオ技術等を活かした「世界に注目される薬とやま」の創出・新展開 (4)成長産業として力強く魅力あふれる農林水産業の確立 (5)北陸新幹線大阪延伸による大ゴールデン回廊形成と拠点性の強化</p>	<p>4 地域文化が生活に溶け込む「生活文化デザイン王国」の形成</p> <p>富山の文化的ポテンシャルを活用・発展</p> <p>(1)アート・デザイン県とやまの創出 (2)未来へ示すクリエイティブな文化(クールトヤマ)の形成 (3)海・山近接の富山の魅力を活かした「中山間ニューライフコミュニティ」の形成による里山振興</p>	<p>7 価値創造力を高める学校教育プログラムの確立</p> <p>富山ならではの質の高い教育を行っていくための特色ある取組み「富山・新スタンダード」の確立</p> <p>(1)未来のイノベーションを起こすために必要な人材の育成 (2)未来社会が求める人材を輩出する新たなキャリア教育システムの確立</p>
グローバル&ローカル2045	<p>2 世界に存在感を示す「とやまグローバル戦略」の展開</p> <p>新興国等をはじめとした成長エネルギーを取り込んだ世界で存在感を示すグローバル戦略の形成</p> <p>(6)「とやまグローバル戦略」の推進 (7)富山きとときと空港における国内外の航空ネットワークの更なる展開 (8)選ばれ続ける観光地 富山</p>	<p>5 世界に開かれた「とやま文化」の発信</p> <p>文化の国際化を促進し、文化と産業、文化と観光の親和性を高め、とやま文化を発信、コミュニティネットワークを構築</p> <p>(4)世界への発信による「とやまの文化GDP」の拡大 (5)舞台芸術拠点「TOGA」による地域の活性化 (6)富山サポーターグローバルネットワークの構築 (7)とやま食文化の振興・展開</p>	<p>8 ふるさと学習とグローバル教育の融合(Think global, Act local)</p> <p>学校、家庭、地域が一体となったふるさと学習を推進するとともに、グローバル化に対応した教育環境を整備</p> <p>(3)富山が誇る「ふるさと富山」の探究 (4)郷土を学び英語で伝えるコミュニケーション能力の養成 (5)大学や高校におけるグローバルな教育環境の整備</p>
人・地域が輝く2045	<p>3 個の力を磨き上げ、潜在力を高める人材戦略の推進</p> <p>高齢者や女性のパワーアップ、高度専門人材の育成確保、クリエイティブ人材の創出など人材戦略の推進</p> <p>(9)生産年齢の引き上げによる高齢者の活用促進(「かがやき現役率」の向上) (10)若者、女性、障害者活躍のためのキャリア促進</p>	<p>6 文化芸術の力による「元氣とやま」の牽引</p> <p>文化の人づくりと文化の場づくりを促進し、文化の力が持つ心の癒し、生きがいづくりにより元氣富山を牽引</p> <p>(8)学校と地域でつくる文化の担い手育成 (9)芸術文化活動を通じた県民総活躍の場の創出 (10)文化芸術資源をもとにした文化芸術クラスターの形成</p>	<p>9 地域の生産性、問題解決力(地域力)の向上</p> <p>地域力を高めるため、地域内での情報の密度を引き上げ、経済や文化が響きあう地域を支え、絆をつなぐ人づくりを推進</p> <p>(6)地域共生社会推進のための地域人材づくり (7)健康寿命日本一とやま (8)スポーツ活動を通じた県民総活躍の推進 (9)最先端地域交通システムによる交流促進 (10)最先端技術を活かした「防災先進県とやま」</p>

政策目標

日本で最もイノベーションが生まれやすい県

日本で最も「心の元氣」が感じられる県

日本で最も人が育ち、集い、活躍することができる県

経済(10の構想)

展開方向1 生産性向上と新たな価値創造の創出

経済1 第4次産業革命を勝ち抜くための製造・研究開発拠点の整備

- 富山型スマート工場の普及
- アルミ技術等を活かした、宇宙太陽光発電(送電)システムの研究検討

経済2 環境・エネルギーフロンティア富山の創造

- 食品ロス・廃棄物削減などゼロエミッション社会の構築
- 富山の技術を活かした水素社会の構築

経済3 バイオ技術等を活かした「世界に注目される薬都とやま」の創出・新展開

- バイオ医薬品等の研究開発と県内ものづくりメーカーとの連携を支援
- 産業を支える人材の育成と県外の関係者との交流推進
- 再生医療に関する開発支援や関連資材・機器の生産拠点の形成

経済4 成長産業として力強く魅力あふれる農林水産業の確立

- 「とやま型水田スマート農業」構築、園芸作物の生産拡大による「食の王国とやま」づくり
- 富山湾海洋牧場(大規模養殖、ICT技術活用による水産業の生産性向上、海中レストランなど6次産業化)

経済5 北陸新幹線大阪延伸による大ゴールデン回廊形成と拠点性の強化

- 「環状新幹線」の形成
- 陸海空の交通基盤整備により拠点性強化

展開方向2 世界に存在感を示す「とやまグローバル戦略」の展開

経済6 「とやまグローバル戦略」の推進

- 専門家集団による「とやま産業海外展開支援機構(仮称)」の設置
- 工業製品、環境技術の輸出促進、農林水産物の輸出ターミナル整備、日本海側最大フードメッセ開設

経済7 富山きときと空港における国内外の航空ネットワークの更なる展開

- MRJなどリージョナルジェットの活用等により、航空ネットワークの充実
- 空港施設等の関連インフラなど富山きときと空港の機能強化の推進

経済8 選ばれ続ける観光地 富山

- 立山地域における魅力あるガイドツアーや春スキーなど観光商品化促進
- 海と山を楽しめる上質な宿泊施設の整備

展開方向3 個の力を磨き上げ、潜在力を高める人材戦略の推進

経済9 生産年齢の引き上げによる高齢者の活用促進(「かがやき現役率」の向上)

- 対人サービス等の業務、ICTを活用した高齢者による若者の遠隔指導など高齢者の活躍促進
- 高齢者の起業に対する全面的なサポート
- モビリティ、自動運転自動車の利用支援など、ロボット技術等を活用した働きやすい環境の整備

経済10 若者、女性、障害者活躍のためのキャリア促進

- AIで将来の成長分野・求められるスキルの予測・分析(ホーガーマイトによる職業プログラム開発)
- 自分の意思で働く場所・時間を選べる柔軟で自由な働き方促進
- ロボット技術や、コミュニケーションが困難な障害者等が自分の考えを可視化・言語化して伝達する技術の活用促進、農福連携など、障害者の活躍の場を大幅に拡充

<政策目標> 日本で最もイノベーションが生まれやすい県

本県の持つ知恵と技術を活かした、世界に誇る絶えざるイノベーションの創出環境を求めて、国内外から企業や研究機関、クリエイティブな人材が集い、県内企業が次々と新たなイノベーションにチャレンジしていること

文化(10の構想)

展開方向4 地域文化が生活に溶け込む「生活文化デザイン王国」の形成

文化1 アート・デザイン県とやまの創出

- 県総合デザインセンターの機能強化、「デザイン拠点 TOYAMA」
- KOGEIの魅力発信、アートとデザインを活用した活性化

文化2 未来へ示すクリエイティブ文化（クールトヤマ）の形成

- クリエイターやクリエイティブ産業の集積
- 工芸技術の高さを活かし、アニメといったコンテンツと伝統工芸を組み合わせた新ジャンル形成

文化3 海・山近接の富山の魅力を活かした「中山間ニューライフコミュニティ」の形成による里山振興

- 中山間地域へのヤングミドル層の移住促進
- 里山資源の循環利用によるコミュニティづくり

展開方向5 世界に開かれた「とやま文化」の発信

文化4 世界への発信による「とやまの文化GDP」の拡大

- 世界に誇る文化イベントの発展、新たな国際イベント形成
- 産業施設、文化財、文化施設のユニークベニューによる観光資源化

文化5 舞台芸術拠点「TOGA」による地域の活性化

- 国際的に優れた舞台芸術作品の創造・発信、国内外の演劇人や芸術文化に高い関心を有する若者や熟年の方向けのトレーニング・プログラムや座学による舞台芸術を担う人材や舞台芸術に高い関心を持ちサポートする人材の育成

文化6 富山サポーターグローバルネットワークの構築

- 次世代モバイル・ネットによるプラットフォーム（バーチャルコミュニティ）上に、国内外で活躍する富山県ゆかりの「富山サポーター」によるネットワーク「とやまコミュニティ」を構築

文化7 とやま食文化の振興・展開

- 外国人シェフの「とやまの食」を始めとした和食の研修の場の整備
- 「イタリア料理フェア」等の日本を代表する食文化交流イベントの開催

展開方向6 文化芸術の力による「元気とやま」の牽引

文化8 学校と地域でつくる文化の担い手育成

- 子供たちのための「芸術文化体験プログラム」の確立・展開
- 国内外の一流指導者と協力した文化の担い手養成

文化9 芸術文化活動を通じた県民総活躍の場の創出

- 「環水公園芸術文化ミュージアム構想」の推進
- 舞台、ステージと同様の規模や環境で練習を行うことができる拠点形成

文化10 文化芸術資源をもとにした文化芸術クラスターの形成

- とやまの魅力ある文化芸術資源等を活かした「文化芸術クラスター」の形成
- 国内外の美術館と連携した「バーチャルミュージアム」の構築

< 政策目標 > 日本で最も「心の元気」が感じられる県

県民や県内に集う誰もが、本県の多様な芸術文化活動への参加、美しい自然環境、豊かな食、伝統文化などを活かした地域づくりなどを通して、精神的な安らぎや生きる喜びを実感し、心豊かな人々の笑顔があふれていること

人づくり(10の構想)

展開方向7 価値創造力を高める学校教育プログラムの確立

人づくり1 未来のイノベーションを起こすために必要な人材の育成

- 高付加価値なサービスに共通するホスピタリティ等の教育プログラム開発、専門コース創設
- デザイナー・アーティストの育成（県立大）、プロダクトデザインを専門とした学科創設（県立高）
- ヒューマンスキルとテクニカルスキルを融合した人材育成のためのモデル校の指定

人づくり2 未来社会が求める人材を輩出する新たなキャリア教育システムの確立

- 産学官による「キャリア教育コンソーシアム（仮称）」の設立

展開方向8 ふるさと学習とグローバル教育の融合(Think global, Act local)

人づくり3 富山が誇る「ふるさと富山」の探究

- ライフステージに応じたふるさと学習の体制づくり
- 万葉集や富山湾、売薬など教科横断的に学ぶ学科等の創設

人づくり4 郷土を学び英語で伝えるコミュニケーション能力の養成

- ふるさと教材を英語教育に活かすなど「とやまメソッド」の開発
- 富山を世界に紹介するとやまジュニアガイドの育成

人づくり5 大学や高校におけるグローバルな教育環境の整備

- 単位化、グローバル枠制度（仮称）の導入、国際学科の創設、留学生の相互受入、中国語習得モデル校の指定

展開方向9 地域の生産性、問題解決力(地域力)の向上

人づくり6 地域共生社会推進のための地域人材づくり

- 児童、高齢者、障害者等の福祉サービスの統合促進、これを支える多様な医療・福祉人材の養成・確保
- 「ソーシャルキャピタル・マイレージ制度」の導入検討

人づくり7 健康寿命日本一とやま

- 健康ポイント制度の導入検討、ウェアラブル端末の活用
- 薬局・コンビニなど高利便性の場所での簡易健康診断を行う「健康の気づき拠点」の設置

人づくり8 スポーツ活動を通じた県民総活躍の推進

- 子ども、若者、高齢者まで幅広い層が楽しめる全天候型の文化スポーツ施設（アリーナ）整備
- 空港周辺のスポーツ施設整備、スポーツフェスタなど住民が参加できる機会の充実、トップアスリートの育成強化のため ICT 等を活用し、競技力向上

人づくり9 最先端地域交通システムによる交流促進

- 自動運転バスを都市部のラストマイル（主要駅～目的地までの数キロ）や交通不便地域で導入
- 端末で利用希望情報を送信するだけで必要な交通が確保される「公共交通提供システム」の整備

人づくり10 最先端技術を活かした「防災先進県とやま」

- 災害情報の共有・発信、G 空間社会による迅速な初動対応、システム化したインフラマネジメント
- ヘリコプターを活用して人命救助を向上するネットワーク構築

<政策目標> 日本で最も人が育ち、集い活躍することができる県

将来に夢や目標を持ってたくましく未来を切り拓いていく子どもたちが育ち、ふるさと富山に軸足をおきながら社会に巣立っている。また、世代や国籍などを越えて、地域を支え、絆をつなぐ人材が集い、健康で生き生きと活躍していること

IV むすび

- 構想の実施（別紙参照）にあたっては、①すぐに事業としてとりかかるもの、②まずは枠組みなどを作って事業化に移行していくもの、③構想・アイデアについて技術革新などの社会動向を勘案しつつ中長期の視野にたって対応するものなど、3つのパターンに仕分けし、緊要度を勘案しながら、適切に実施してまいります。
- これらの構想の実施に向けては、県だけではなく、国、市町村、団体、そして勤勉でチャレンジ精神旺盛な多くの県民など様々な主体が、それぞれの役割を発揮していくことが期待されます。
- 日本や世界の大きなトレンドは刻々と変化しており、時には現段階における想像を超えた変化が起きるかもしれません。それに伴い、このビジョンで掲げた3つの将来像や9つの展開方向も時々刻々と変化し得ます。それに応じて、各構想についても引き続き検討し、時代に合ったものとしていく必要があります。